

さいたま市立植水小学校

〒331-0057 さいたま市西区中野林225-1

TEL 048-624-4235

FAX 048-624-2280

Web ページ <http://uemizu-e.saitama-city.ed.jp/>

E-Mail [uemizu-e@saitama-city.ed.jp](mailto:uemizu-e@saitama-city.ed.jp)

令和6年度 1月号 令和7年1月7日 発行



# 学校だより

～創立136周年

さいたま市立植水小学校  
校長 保坂 泰司

## 謹賀新年 2025

あけまして おめでとうございます。

本年も どうぞよろしくお願ひいたします。



本日より、令和6年度 第3学期が始まりました。登校する子どもたちを見ていると、冬休みを十分満喫した様子や早く友だちに会いたく早足になる様子をうかがうことができました。友だちや先生に冬休みの出来事をたくさん話してください。もしよかったら、私にも聞かせてください。楽しみにしています。

2025年の干支は「巳年(みどし)」です。「植水っ子の気持ちは、なんでもおみどろし」と胸を張って言えるようになるくらい、子どもたちの日頃の行動をしっかりと、かつあたたかく全職員で見守ってまいります。そして、一人ひとりの成長を促す声かけもハヴィ〜に行ってまいります。冬休み中、また3学期に向けてお子様の様子で気になること、心配なことがありましたら学校まで連絡をお願いいたします。

さて、私は常日頃より「当たり前前は当たり前」ができるよう、植水っ子に言っています(今年度の5月号でもちょっと触れました)。一概に「当たり前前」と言っても、ひとそれぞれいろいろあると思いますが、私の考える「当たり前前」は、あいさつや返事、正しい姿勢でお勉強、掃除などです。これらは、植水っ子が将来大きく育つために不可欠なことだと考えます。それらは大きく育つための「土台」になるのです。優雅にそびえる富士山は、なぜあんなに高いのか。それは、土台としての裾野が広大でしっかりしているからです。だから、日本一の高さを誇るまでになったと考えます。人間も同じだと考えます。土台が広くしっかりしていれば、その上に年を重ねるごとにたくさんの学んだことや経験を積み上げることができ、大きく成長していけるものと考えています。すべての植水っ子にも大きく成長してもらいたいと願っています。急ぐ必要はありません。ひとつずつ、「当たり前前」ができるようになってほしいと考えます。そのために、我々も「植水っ子の気持ちは、なんでもおみどろし」と言えるよう、「土台」づくりのための子どもたちへの見守りと声かけをしっかりと行っていきます。植水っ子の皆さん、2025年は「ひとつひとつを丁寧かつ実直に、そして継続して」を大切にして、いろいろなことに取り組んでいきましょう。

きめの細かい、冬にも緑色の変わらない玉突台のようなあの芝生は、イギリス人の数多い自慢の一つであり、これを常に短く刈り込みローラーをかけ、水を打って手入れをすることは、彼らにとって大切な楽しみとなっている。ケムブリッジのトリニティー・カレッジの前庭で、参観に来たアメリカのある大富豪が、ローラーを押しているみすばらしい身装の園丁(えんてい→庭師のこと)に十円札をつかませて、芝生の手入れの秘訣を尋ねた。水をやりなさい、ローラーをかけなさい。そして、掌中の十円札と富豪の顔を見比べている。謎が判ってアメリカ人は、もう一枚紙幣を戴かせてやる。水をやりなさい、ローラーをかけなさい。さすがに少しむっとしてあと十円つけ足すと、そんなことは判っている、と怒鳴った。おもむろに三枚の札を懐中にねじ込むと、園丁は言った。それを毎日繰り返して五百年経つとこうなるんで。 【「自由と規律」池田 潔 著】